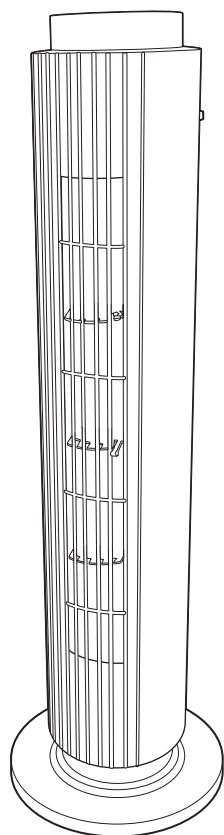


ミドルタワーファン FTQ-601

取扱説明書・保証書



このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保存してください。

も く じ

安全上のご注意	P1～P2
各部の名称とはたらき	 P3
正しい使いかた	P4～P6
お手入れと保存	P7～P8
修理・サービスを依頼する前に	 P9
長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について	 P10
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙

仕 様

電 源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	32W
電源コード長さ	約1.8m
外形寸法	約 幅 19.5 × 奥行き 19.5 × 高さ 64cm
質 量	約2.4kg

- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 指示	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。	 プラグを抜く	使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になることがあります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。 修理は販売店またはドウシシヤお客様相談室(裏表紙参照)にご相談ください。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。		お手入れ後、吸気カバーをしっかりと固定する。 取り付けが不十分だったり、正しく取り付けられていないと、けが・故障の原因になります。		ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。		リモコン用の電池からもれた液が目に入ったときは、こすらずに水で洗い流し、医師の診察を受ける。 失明や目に障害を負う恐れがあります。	 水ぬれ禁止	水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。

⚠ 注意

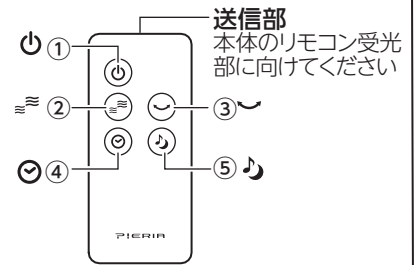
 指示	電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になることがあります。	 禁止	風をからだに、長い時間続けてあてない。 健康を害することがあります。	 禁止	髪を送風口や吸気口に近づけすぎない。 髪が巻き込まれ、けがをする恐れがあります。
	リモコンの電池は⊕ ⊖を正しく入れる。 間違えて入れると、故障するだけでなく、液もれや爆発の原因になります。		ベース部を引きずらない。 床が傷つく原因になることがあります。		次のようなところでは使わない。 ●レンジなど炎の近く ●引火性のガスがあるところ ●雨や水しぶきがかかるところ 変色・変形・炎の立ち消え・火災・感電の原因になることがあります。
	長時間使用しないときはリモコンの電池を抜く。 長時間入れたままにしておくと、液漏れによって内部を汚したり、破裂による火災やけがの原因になります。		送風口や吸気口に指などを入れない。 けがの原因になることがあります。		お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。
	リモコンを廃棄するときは、電池を抜く。 そのまま廃棄すると、思わぬ事故の原因となります。電池は各地方自治体の指示に従って処分してください。		不安定な場所で使わない。 けが・故障の原因になることがあります。		首ふり動作中の扇風機を無理に正面に向けない。 破損・故障・異音などの原因になることがあります。

各部の名称とはたらき

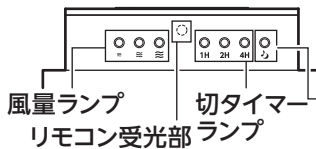
本体操作部

- ① 電源ボタン
運転を開始／停止します
- ② 風量ボタン
運転中、風量を切り替えます
- ③ 首ふりボタン
運転中、首ふりを開始／停止します
- ④ 切タイマーボタン
切タイマーの時間を設定します
- ⑤ リズム・おやすみ風ボタン
リズム／おやすみ風機能の切り替えをします
※長押しで操作部のランプが減光モードに設定されます (本体のみ)
リズム風 ... 緑色に点灯 おやすみ風 ... オレンジに点灯

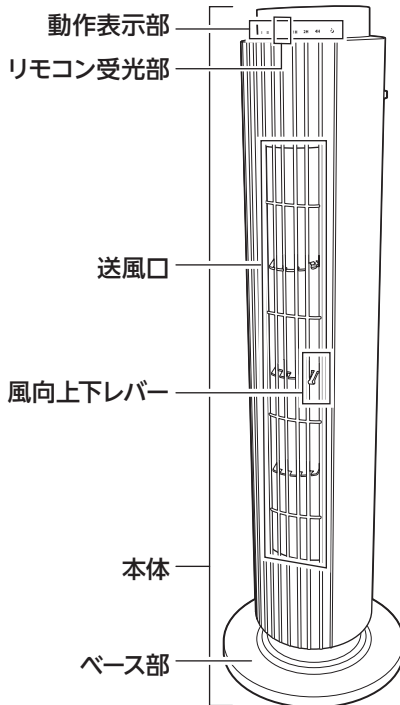
リモコン



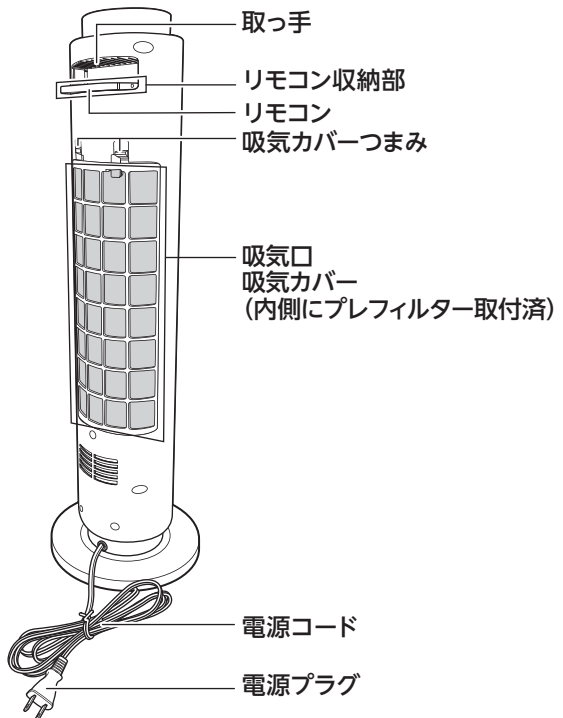
動作表示部



前面



後面



梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

本体	1個	プレフィルター (吸気カバーに取付済)	1個
リモコン	1個	取扱説明書 (保証書含む)	1個
コイン形リチウム電池 (CR2032)	1個		

※お買い上げの際、製品の箱に入っていた包装部材は、シーズン終了後、製品を収納するときに必要ですので捨てないでください。

正しい使いかた

使用前の準備

リモコンに電池を入れる

下記の手順で付属のコイン形リチウム電池を入れてください。

1. 電池ボックスをリモコン本体から引き出す①

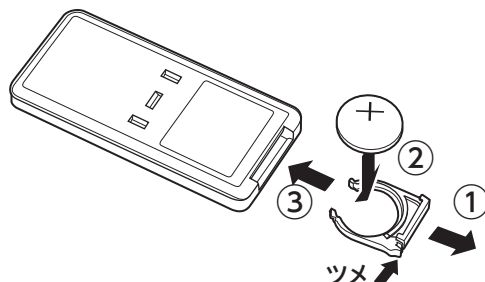
電池ボックスのツメを内側に倒すようにして引き出します。

2. 電池の⊕⊖の向きに注意して電池ボックスにコイン形リチウム電池を取り付ける②

電池の⊕側を上にして取り付けてください。

3. 電池ボックスをリモコン本体に差し込む③

カチッと音がするまで差し込んでください。



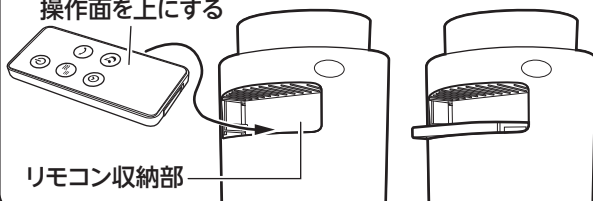
使用可能範囲

- ・本体正面から直線で約4m
- ・本体正面から左右に約30度
- ・リモコンと本体の間に障害物があるときは、リモコンが正常に動作しないことがあります。
- ・LED バックライトの液晶テレビがそばにあるとリモコンの受光感度が低下することがあります。テレビの光が当たらない向きに本体を設置してください。

リモコン収納部

リモコンを使用しないときは、本体後面の取っ手の下のリモコン収納部に入れておきます。リモコンの操作面を上にしてリモコン収納部に入れてください(裏面の凹みと本体側の凸部によってロックされ、落下しません)。

操作面を上にする



⚠注意

- ・電池の寿命を長くするため、長時間使わないときは電池を取りはずす。
- ・電池の破裂や液もれを防ぐため、⊕⊖を正しく入れる。
- ・電池の充電・ショート・分解・火への投入・加熱などはしない。
- ・万一、液もれが起こったときは、よくふき取ってから新しい電池を入れる。

通常の使用

1. 本体を安定した水平な場所に設置する

電源コードの上にベース部をのせていないかなど確認してください。

※必ずベース部を下にして、本体を立てて、吸気口・送風口をふさがずに使用してください。

2. 電源プラグをコンセントに差し込む

ピーピーと音が鳴ります。

運転を開始／停止する

1. 運転を開始する

本体またはリモコンの電源ボタンを押すと、運転を開始します。

- ・通常の使用時にはメモリー機能により、前回停止時の風量・首ふりで運転を開始します。
- ・電源プラグをコンセントに差し込んでから最初に本体またはリモコンの電源ボタンを押したときには、弱風・首ふりなしで運転を開始します。

メモリー機能

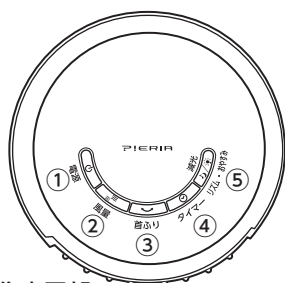
本体またはリモコンの電源ボタンを押すと、前回の設定で運転を始めます(風量・首ふり)。

※電源プラグをコンセントからはずすと、初期設定にリセットされます。

[初期設定] 風量: 弱風、首ふり: なし

正しい使いかた (つづき)

本体操作部

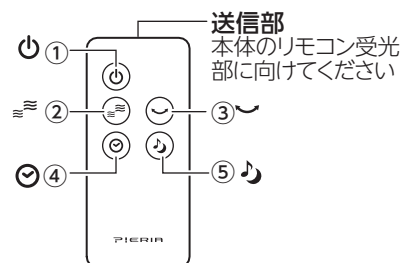


動作表示部



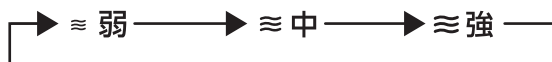
- ① 電源ボタン
運転を開始／停止します
- ② 風量ボタン
運転中、風量を切り替えます
- ③ 首ふりボタン
運転中、首ふりを開始／停止します
- ④ 切タイマーボタン
切タイマーの時間を設定します
- ⑤ リズム・おやすみ風ボタン
リズム／おやすみ風機能の切り替えをします
※長押しで操作部のランプが減光モードに設定されます(本体のみ)

リモコン



2. 風量を調節する

本体またはリモコンの風量ボタンを押して風量を調節してください。



※ 設定された風量の風量ランプが点灯します。

3. リズム／おやすみ風機能を作動させる

運転中に本体またはリモコンのリズム／おやすみ風ボタンを押すと機能が切り替わります。

※ リズム／おやすみ風ランプが設定された風の色を点灯します。



減光モード

運転中に本体のリズム／おやすみ風ボタンを長押し (3秒以上) すると、表示部・運転ランプが減光モードに設定されます。

※ リモコンのリズム／おやすみ風ボタンでは減光モードを設定できません。

4. 首ふり運転を開始／停止する

運転中に本体またはリモコンの首ふりボタンを押すと、首ふり運転を開始します。もう一度押すと首ふり運転を停止します。

※ 首ふりは、ベース部の電源コードが出てくるところを基準にして、左右に首をふります。

リズム／おやすみ風機能について

リズム風

(リズム・おやすみ風ランプ: 緑色に点灯)

風量に強弱をつけ、自然な風を再現します。

本体またはリモコンの風量ボタンを切り替えることで風量パターンが変化します。

おやすみ風

(リズム・おやすみ風ランプ: オレンジ色に点灯)

風量に強弱をつけ、自然な風を再現します。

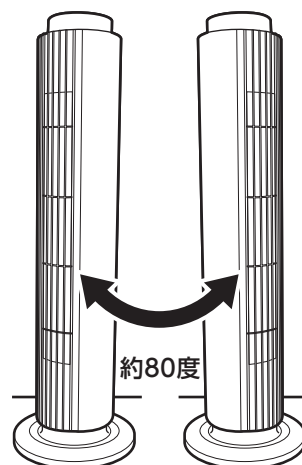
本体またはリモコンの風量ボタンを切り替えることで次のように風量パターンが時間とともに変化します。

≡ 強 強リズム風 → 中リズム風 → 弱リズム風 と時間とともに変化します。

≡ 中 中リズム風 → 弱リズム風 と時間とともに変化します。

≡ 弱 弱リズム風 と同じです。

※ おやすみ風運転中、風量が変わっても風量ランプは設定時の表示から変化しません。



5. 切タイマー（時間）を設定する

切タイマーは、設定した時間に合わせて自動的に運転を停止する機能です。

運転中に本体またはリモコンの☉切タイマーボタンを押すと、切タイマーランプが点灯し、切タイマーが設定されます。切タイマーは最長4時間まで設定することができます。

※切タイマーをキャンセルするには、切タイマーランプが消灯するまで☉切タイマーボタンを何度か押してください。

6. 運転を停止する

運転中に本体またはリモコンの⏻電源ボタンを押すと、運転を停止します。

切り忘れ防止機能（オートオフ機能）

本体またはリモコンを最後に操作してから12時間経過すると、運転を自動的に停止します。

7. 電源プラグをコンセントから抜く



警告

使用後は電源プラグをコンセントから抜く。
火災・故障の原因になります。

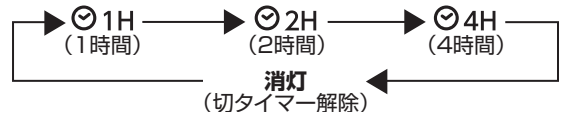
送風角度調節

送風口の右側にある風向上下レバーで、風の向きを調節することができます。

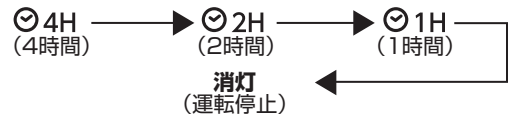
※上下レバーで送風角度調節するときは、本体上部を押さえながら行なってください。

切タイマーランプについて

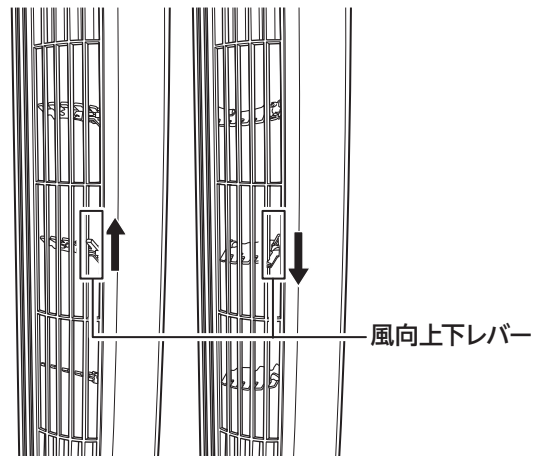
☉切タイマーボタンを押すごとに、切タイマーランプは下のように切り替わります。



切タイマーを設定したのち、時間の経過とともに切タイマーランプが移り変わり、切タイマーが働くまでの時間を表示します。



設定した時間が経過すると、切タイマーが働き、切タイマーランプは消灯し、運転を停止します。



お手入れと保存



お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
感電・火災・けがの原因になります。

お願い

- ・住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。
- ・本体に水をかけて洗わないでください。(感電・故障の原因になります。)

お手入れ

通常のお手入れ

送風口と吸気口についてホコリは、すきま用ノズルなどを取り付けた掃除機などで取り除いてください。

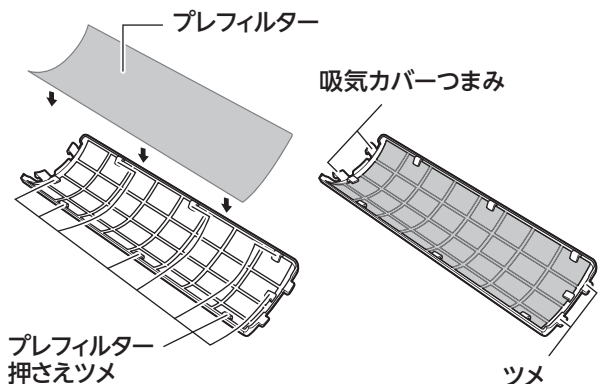
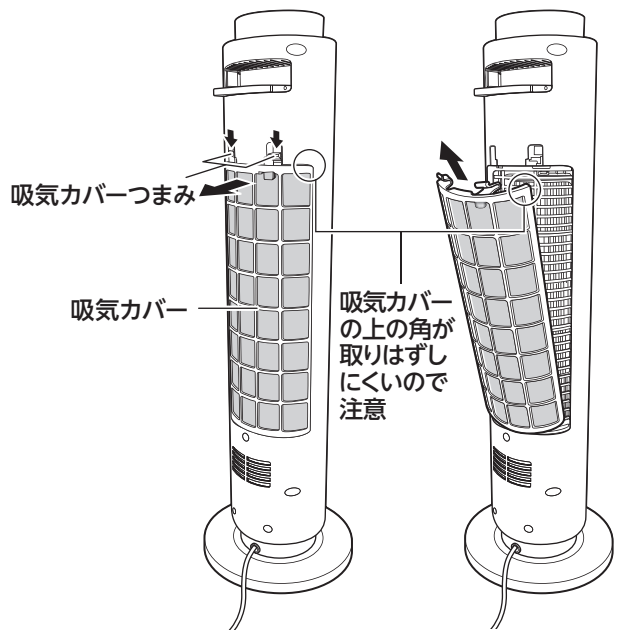
本体のお手入れ

本体の汚れは、ぬるま湯か食器用中性洗剤に浸して、かたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください。(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります。)

プレフィルターのお手入れ

定期的に以下の手順に従って行なってください。

1. 電源ボタンを押して電源を切にし、電源プラグをコンセントから抜きます。
2. 本体後面にある、吸気カバーつまみ(2か所)を下に押して手前に引くと、吸気カバーをはずすことができます(吸気カバーの上の角が取りはずしにくいので注意してください)。
3. 吸気カバーに取り付けられている、プレフィルターのゴミやホコリを手や掃除機でていねいに取り除いてください。
※汚れがひどいときには、プレフィルターを取りはずし、プレフィルターをていねいに水洗いしてください。そのとき、強くねじったり、こすったりしないでください。破損の原因になります。
※プレフィルターを水洗いしたときは、十分に乾燥させてください。
4. 吸気カバーに、プレフィルターを取り付けます(吸気カバーからプレフィルターを取りはずしたとき)。吸気カバー内側にある、上下左右8つのプレフィルター押さえツメの内側に付けてください。
※プレフィルターは、目の粗い網状になっています。大きめのゴミや毛などが内部に入るのを防ぐ役目をします。



5. 吸気カバーを本体に取り付けます。

吸気カバーにあるツメを本体後面の対応する部分に差し込んでから取り付けてください。

※ 取りはずしと同様に吸気カバーの上の角が取り付けにくいので注意してください。

⚠ 注意

- 吸気カバーの取り付けのときは、指などをはさまないように注意する。
- お手入れのあとは、プレフィルター、吸気カバーを正しく取り付け。
- プレフィルターを取り付けずに運転しない。
本体内部に異物が入り、異音や故障の原因になります。

プレフィルターの交換

プレフィルターが破れたり、汚れがひどくなったり、紛失したときは、新しいプレフィルターに交換してください。プレフィルターをお求めのときは、本体お買い上げの販売店またはドウシシャお客様相談室（裏表紙参照）にお問い合わせください。

※ プレフィルターは消耗品ですので、保証期間中でも有償となります。

交換用プレフィルター

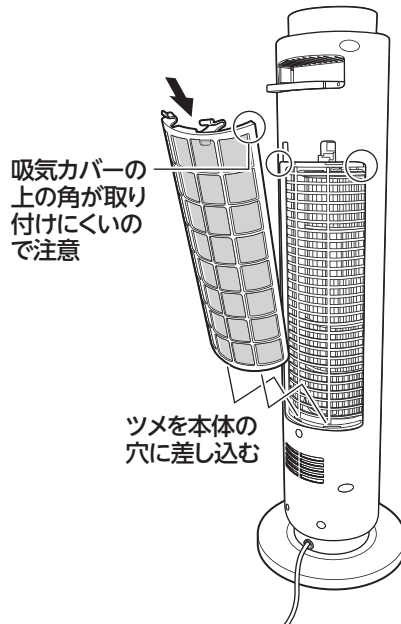
商品名 プレフィルター

型番 PFT-FTQ601

¥800 (税抜)

保存のしかた

- お手入れのあと、よく乾燥させてください。
- ポリ袋などをかぶせ、お買い上げの商品が入っていた箱に入れて、湿気のない場所に保存してください。



修理・サービスを依頼する前に



警告

修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
送風されない	・電源プラグが抜けている	電源プラグをコンセントに差し込む
突然運転が止まる	・切り忘れ防止機能 (6ページ) が働いている	本体またはリモコンの  電源ボタンを押して電源を入れる
運転時に大きな音をする	・吸気カバー・プレフィルターが正しく取り付けられていない	吸気カバー・プレフィルターを正しく取り付ける
リモコンから操作できない	・リモコンの電池が切れている	新しい電池に交換する
	・コイン形リチウム電池が逆に入っている	コイン形リチウム電池を正しく入れる (「電池を入れる」4ページ)
風の吹き出しが弱い	・吸気口や送風口、吸気カバー・プレフィルターにホコリがたまっている	ホコリを掃除機などで取り除く、吸気カバー、プレフィルターのお手入れをする (7ページ)
	・吸気口をふさいでいる	・吸気口をふさがない ・吸気口をふさいでいるものを取り除く

長年ご使用の扇風機はよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。



このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャお客様相談室に点検をご相談ください。

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

（本体への表示内容）

※経年劣化により発火・けが等の事故の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた以下の内容の表示を本体に行っています。

	[製造年]（本体に西暦4桁で表示してあります） [設計上の標準使用期間]（本体に表示してあります）
	設計上の標準使用期間を超えて使用されますと経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

（設計上の標準使用期間とは）

※下表の標準的な使用条件の下で使用した場合に、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。

※設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また、偶発的な故障を保証するものではありません。

■ 標準使用条件〈JIS C9921-1による〉

環境条件	電圧	AC 100V	製品の取扱説明書による
	周波数	50Hz／60Hz	
	温度	30℃	
	湿度	65%	
	設置	標準設置	
負荷条件		定格負荷（風速）	
規定時間 など	運転時間	8h／日	
	運転回数	5回／日	
	運転日数	110日／年	
	スイッチ操作回数	550回／年	
	首振運転の割合	100%	

●「経年劣化とは」

長期間にわたる使用や放置に伴い生ずる劣化をいいます。